

研究主題

学習指導要領を具体化する小・中・高等学校国語科の指導法に関する研究

—学びの連続性を考慮し、単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくり—

【研究担当者】 長根義広 横田昌之

【この研究に対する問い合わせ先】

電話 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562

E-mail kyouka-r@center.iwate-ed.jp

I 研究の目的

学習指導要領国語科改訂の趣旨に「実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けることに重点を置いた授業改善を図ること」とあり、具体的な内容として「社会生活に必要とされる発表、討論、解説、論述、鑑賞などを行う能力の育成を重視すること」や「言語活動を通して指導事項を指導すること」など、授業改善の方向性が示されている。

このことについて、全国的に学習指導要領を具体化する授業についての研究や実践が広がりつつあり、県内においても同じような状況にあるものの、その研究や実践が十分であるとは言い切れない。特に、小・中・高等学校を貫いた児童生徒の12年間の学びの連続性の意識や、単元を貫く言語活動の充実についての理解に課題がある。そのため、児童生徒は学年が上がるにつれて国語が苦手となる傾向にある。

このような状況を改善するには、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業について、その理論を明らかに示した上で、実践例をまとめ、小・中・高等学校の先生方に理解を広めていく必要がある。

そこで、この研究では理論と実践をまとめた授業づくりガイドブックを作成し、岩手県教育研究発表会での発表、研修講座での講義、校内授業研究会での紹介、県内国語科指導主事等への積極的な活用を働きかけることによって、小・中・高等学校国語科の授業改善を進めようとするものである。

II 研究の方法

- 1 学習指導要領の理解と研究的視点からの整理
- 2 先行研究者の文献や講演等からの理論構築
- 3 理論に基づいた授業実践と検証
- 4 研究のまとめとしてのガイドブック作成と検証

III 研究の計画

- 1 平成 25 年度
 - (1) 「読むこと」領域の理論研究と授業実践
- 2 平成 26 年度
 - (1) 「読むこと」領域の継続研究と授業実践、「ガイドブック」を利用した講義と「ガイドブック」の検証
 - (2) 「書くこと」領域の理論研究と授業実践
- 3 平成 27 年度
 - (1) 「読むこと」領域の継続研究と授業実践、「ガイドブック」を利用した講義と「ガイドブック」の検証
 - (2) 「書くこと」領域の継続研究と授業実践、「ガイドブック」を利用した講義と「ガイドブック」の検証
 - (3) 「話すこと・聞くこと」領域の理論研究と授業実践

IV 研究の内容

1 研究構想図

実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けた児童生徒

最終目標

【期待する教師の授業改善の姿】

- 12年間の指導内容を把握した上で授業を実践できる
- 単元を貫く言語活動を位置付けた授業を実践できる
- 小・中・高等学校で一貫した指導法による授業を実践できる

【期待する児童生徒の変容】

- 国語の学習内容がよく分かるようになる
- 国語の学習が社会で役立つと実感するようになる
- 国語を学ぶことが楽しいと感じるようになる

【「授業づくりガイドブック」の考え方の普及による授業改善の推進】

- 岩手県教育研究発表会における発表と協議
- 研修講座、要請研修、随時研修での活用
- 岩手県内国語科指導主事の積極的な活用
- 総合教育センターwebページによる発信

【研究内容】

日常の授業を改善できる汎用性の高い「授業づくりガイドブック」の作成

- 1年目 「識」こと 領域
- 2年目 「讀」こと 領域
- 3年目 「語」こと・「聞」こと 領域

研究協力員による授業実践
センター所員による単元開発と実践

ガイドブックの
検証と改善

授業実践後の検証

12年間の学びの連続性の意識

- 12年間で育成すべき態度や言語能力の明確化
- 継続して取り組むべき指導方法の共通理解
⇒小・中・高で、目指す授業像を共有
- 12年間の指導系統表の整理
⇒目標や内容の系統性を把握
- マトリックス型年間指導計画の作成
⇒指導の焦点化などの工夫

単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくり

- 単元の構想の仕方
⇒基本となる学習過程からの授業づくり、単元構想表の活用
- 本時の授業の進め方
⇒基本となる学習過程からの授業づくり
⇒子ども主体の授業展開（学習形態の工夫、時間配分の工夫）
- 評価の工夫改善
⇒指導を見直す視点の共有

そのために

「学習指導要領を具体化する授業像」を理解した上で、「日常の授業」を変えていくことが必要

【教師の指導実態】

- ・小学校では、国語科を研究主題として取り組んでいる学校が多い。しかし、すべての学校で学習指導要領の趣旨をとらえた授業が展開されているとは言えない。
- ・中学校では、一部の先生方は学習指導要領の趣旨をとらえた授業をしようと取り組んでいるが、県全体に広がっているとは言えない。
- ・高等学校では、学習指導要領の趣旨をとらえた授業について理解があまり進んでおらず、教師の説明中心の授業が展開されている場合が多い。
- ・すべての校種において、学習指導要領の趣旨を理解できたとしても、具体的な授業実践の段階になって指導に困難さを感じる教師が多い。

【児童生徒の実態】

- ・「国語の授業がよく分かる」(H25 県学調, H25 基礎力)
- | | 当てはまる | どちらかと言えば当てはまる |
|------|-------|---------------|
| 小学4年 | 46 % | 43 % |
| 小学5年 | 40 % | 49 % |
| 中学1年 | 32 % | 56 % |
| 中学2年 | 26 % | 57 % |
| 高校2年 | 10 % | 71 % |
- ・「国語の学習は社会で役立つ」(H24 全国学調, H25 基礎力)
- | | 当てはまる | どちらかと言えば当てはまる |
|------|-------|---------------|
| 小学6年 | 68 % | 26 % |
| 中学3年 | 50 % | 37 % |
| 高校2年 | 51 % | 42 % |

2 理論の概要（詳細は「授業づくりガイドブック」参照）

(1) 各領域で「育成すべき態度や能力」について

| 「読むこと」領域 | 「書くこと」領域 |
|---|--|
| 1 目的や意図に応じて読む力 | 1 目的や様式に応じて記述する力 |
| 2 実生活に生きてはたらき、各教科等の学習の基本となる「読むこと」の基礎的な知識及び技能 | 2 実生活に生きてはたらき、各教科等の学習の基本となる「書くこと」における基礎的な知識及び技能 |
| 3 実生活に生きてはたらき、各教科等の学習の基本となる「読むこと」の思考力、判断力、表現力など | 3 実生活に生きてはたらき、各教科等の学習の基本となる「書くこと」における思考力、判断力、表現力など |
| 4 主体的に「読書しよう」とする意欲や態度 | 4 主体的に「書こう」とする意欲や態度 |
| 5 他者と協働するためのコミュニケーション能力や学習力 | 5 他者と協働するためのコミュニケーション能力や学習力 |

(2) 各領域共通の「指導の充実10項目」について

| |
|---|
| 1 系統的、発展的な指導（各教科等、各学年相互間の関連） |
| 2 効果的な指導（指導内容のまとめ方や重点の置き方） |
| 3 言語活動の充実（知識・技能の活用を図る学習活動、言語環境） |
| 4 自主的、自発的な学習（体験的な学習、問題解決的な学習） |
| 5 見通しと振り返り |
| 6 学習形態（個別指導やグループ別指導）や指導方法（課題学習、発展的な学習） |
| 7 学校図書館の利用（主体的、意欲的な学習活動、読書活動の充実） |
| 8 評価の工夫（よい点や進歩の状況などの評価、過程や成果の評価、指導改善、学習意欲の向上） |
| 9 言語の教育としての立場を一層重視（〇的確に理解する能力、〇論理的に思考し表現する能力、〇言葉で伝え合う能力、〇感性や情緒） |
| 10 実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本となる国語の能力の育成 |

(3) 各領域共通の「授業づくりの手順」について

| |
|---|
| 1 目標や内容の系統性を把握する（学習指導要領から12年間の指導系統表を整理する） |
| 2 年間指導計画を工夫する（マトリックス型年間指導計画を作成する） |
| 3 単元を構想する（単元を貫く言語活動を位置付ける） |
| 4 本時を構想する（学習場面における言語活動の充実を図る） |
| 5 評価を工夫改善する（授業改善に生かす視点を大事にする） |

(4) 各領域の「単元の構想」について

| 「読むこと」領域での基本となる学習過程 | 「書くこと」領域での基本となる学習過程 |
|---------------------|---------------------|
| 1 読書目的を設定する | 1 学習課題（目的・相手）を設定する |
| 2 表現モデルを分析する | 2 表現様式上のモデル学習をする |
| 3 学習計画を立てる | 3 学習計画を立てる |
| 4 共通教材を目的と表現を意識して読む | 4 個人課題を選択する |
| 5 共通教材で表現する | 5 取材する |
| 6 表現について交流する | 6 モデルの構成や表現を分析する |
| 7 選択教材で表現する | 7 構成を考える |
| 8 表現について交流する | 8 記述する |
| 9 単元の学習を振り返る | 9 推敲する |
| | 10 清書する |
| | 11 相互交流する |
| | 12 単元の学習を振り返る |

(5) 各領域の「本時の構想」について

| 「読むこと」領域での基本となる学習過程 | 「書くこと」領域での基本となる学習過程 |
|---------------------|---------------------|
| 1 単元の学習過程の確認 | 1 単元の学習過程の確認 |
| 2 本時の学習課題の設定 | 2 本時の学習課題の設定 |
| 3 既習内容や本時の学習内容の確認 | 3 既習内容や本時の学習内容の確認 |
| 4 本時の学習過程の確認 | 4 本時の学習過程の確認 |
| 5 表現モデル・活動モデルの確認 | 5 表現モデル・活動モデルの確認 |
| 6 課題に沿った読み | 6 個人での学習 |
| 7 考えの交流 | 7 グループ・全体での学習 |
| 8 読みのまとめ | 8 個人でのまとめ |
| 9 読みの適用 | 9 本時の振り返り |
| 10 本時の振り返り | |

3 実践した授業の単元名（詳細は「授業づくりガイドブック」参照）

(1) 「読むこと」領域

ア 小学校

- ① 心に残った文を引用したり要約したりして、お気に入りの昔話を紹介しよう～「三年とうげ」（小3）
- ② 齋藤隆介作品を読み、心の中の登場人物をしょうかいしよう～「モチモチの木」（小3）
- ③ お気に入りの論語発表会をしよう～「声に出して楽しもう（論語）」（小5）

イ 中学校

- ① 報道記事で紹介する「竹取物語」一家の人に「なよ竹新聞」の感想を聞こう！～「竹取物語」（中1）
- ② クラスでオリジナル故事成語辞典を作ろう！～「矛盾『韓非子』より」（中1）
- ③ ○○中1学年「どくしよ甲子園」開催！—その本を読みたくなるような「読書ボード」を作ろう
～「少年の日の思い出」（中1）
- ④ 中学生にお薦めの「詩の推薦カード」を作ろう！～「明日」（中2）
- ⑤ 名古屋に発信！「読書で絆交流！ブックボード」を作ろう～「盆土産」（中2）
- ⑥ 清少納言になりきって「現代版枕草子」を書こう！～「枕草子」（中2）
- ⑦ 文芸批評文に挑戦しよう！—小説を批評し、人間について考えを深める～「握手」（中3）
- ⑧ 文豪の作品の批評に挑戦しよう！—小説を批評し、ものの見方や考えを深める～「高瀬舟」（中3）
- ⑨ 新聞から「説明のワザ」を見つけよう！～「月の起源を探る」（中3）
- ⑩ 小学生に中学生の説明力を見せよう！～「月の起源を探る」（中3）

ウ 高等学校

- ① レビューを書く 夏目漱石「夢十夜」～「夢十夜」（高1）
- ② 挑戦！「評論ビブリオバトル」～「人工の自然」（高2）
- ③ 構成、展開、要旨をとらえて、家形構造図を作ろう！～「情報の力関係」（高2）

(2) 「書くこと」領域

ア 小学校

小学校生活をふりかえり、印象深いことを読み手に分かるように整理しながら随筆を書こう～「随筆を書こう」（小6）

イ 中学校

県民に届けよう～今伝えたい私たちの声～「主張文を書こう」（中3）

ウ 高等学校

社会人にふさわしい手紙の書き方を身につけよう！「表現の窓4 手紙を書こう」（高1）

V 研究の検証

1 授業実践における生徒の変容（N=33）

◆「読むこと」 構成、展開、要旨をとらえて、家形構造図を作ろう！～「情報の力関係」（高2）の実践における変容

- | | | | | |
|----------------|-------|-----------|---------------|-----------|
| (1) 授業の内容が分かった | 当てはまる | 44% (9%) | どちらかと言えば当てはまる | 50% (74%) |
| (2) 授業の内容は役に立つ | 当てはまる | 33% (48%) | どちらかと言えば当てはまる | 52% (45%) |
| (3) 授業は楽しかった | 当てはまる | 61% | どちらかと言えば当てはまる | 33% |

*（ ）内の数値は、授業実践前の生徒の回答割合

2 「ガイドブック」有効性に関する調査結果（N=104）

- (1) ガイドブックは、児童生徒の言語能力や学習意欲の向上に役立つか。
①役立つ 81% ②少し役立つ 18% ③あまり役に立たない 0% ④役に立たない 1%
- (2) ガイドブックは、日常の授業改善に役立つか。
①役立つ 78% ②少し役立つ 21% ③あまり役に立たない 0% ④役に立たない 1%

VI 研究のまとめ

1 成果と課題（○成果 ●課題）

(1) 授業実践による生徒の変容について

○教師が「12年間の系統性」と「年間の指導内容」を把握した上で、単元を貫く言語活動を位置付けた授業を行うことは、生徒の学力（学習意欲、基礎的な知識及び技能、思考力・判断力・表現力）を向上させることにつながると考えられる。

●授業だけで、漢字の読み書き能力や語彙力等を向上させることは難しい。

(2) ガイドブックによる目指す授業の理解について

○研究発表会、研修講座、要請研修等において理解を広げることができている。

●理論の説明が分量的に多い。

●実践例がないと授業がイメージしにくい。（すぐ使える実践例がたくさん必要。）

●単元の指導を充実させると、年間の授業時数が足りなくなる。

2 今後の方向性

- (1) ガイドブックに家庭学習の指導の在り方を追加する。
- (2) ガイドブックの授業づくりの理論を分かり易く説明する。
- (3) ガイドブックの授業実践例を充実させる。
- (4) マトリックス型年間指導計画のモデルを作成し、授業時数の少ない単元を開発する。

「読むこと」編と「書くこと」編のガイドブックは、当センターのWebページに掲載しています。